

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上 徳 存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞 應 寺
印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語〔五〕

— 天上天下唯我独尊 —

後堂 門 原 信 典

『普照の序』③
『至聖の命脈、列祖の大機は、換骨の靈方、願神の妙術なり。其れ惟だ雪竇禪師は超宗越格の正眼を具して、正令を提掇し、風規を露わさず。』

先月の八日は、ご承知の通り、お釈迦様のお誕生日です。ここ瑞應寺に併設されている、ひかり幼稚園の入園式、進級式も毎年この日に行われます。どの子も、どの子も、みんな「み仏様のひかりの子」です。「天上天下唯我独尊」はお釈迦様の誕生偈と言われています。しかし世の中には「釈迦はなんて傲慢な人だ、伝記とは云え、世界中でただ我一人が一番尊い。」と言っている」と批判される人もあります。

お釈迦様、本名ゴータマ・

シッダールタは、三〇歳の十二月八日に、明けの明星（金星）の輝きを機縁としてお悟りを開かれ、釈迦牟尼佛、佛陀（覺者）とられます。

そして、お釈迦様の説法を最初に受けたのが、菩提樹下の坐禅に入る前に、共に苦行をした五人の比丘（修行者）です。この五比丘は、苦行を離れたシッダールタを軽蔑していましたがお釈迦様の説法により最初の弟子になるのです。

誕生偈は、その五比丘に説法される爲にハラナ城の鹿野苑に向かう途中、ウツパカという人の質問に答えられたものを、後世に誕生の時に唱え

られたと伝えられました。それは、お釈迦様はお誕生の時に、すでに「天上天下唯我独尊」と、全ての生命の尊さを宣言されると運命づけられていた事を表します。

手塚治虫氏の「ブッダ」という漫画があり、お釈迦様のご生涯が感動的に描かれています。

お釈迦様のお誕生の場面です。

『四月八日のあけぼのの前奇跡は天と地に満ち広がりそれは生きとし生けるもの的心を感動で押し包んだ。あるものは天上から美しい音楽を聴きあるものはかぐわしいにおいをあびたという。そして心の中にだれかが告げるのであった。』

「見よ見よその人が生まれ」と
母親である麻耶夫人は、実家であるコーリヤ国にお産の為、里帰りの途中産気づき、お釈迦様をお産みになられます。そして体調を崩されカピラ城に帰られるのですが、その帰り道に考えた名前がシッダールタ。意味は「目的を遂

げる」。

そして、天上天下を指差した姿とは、どんな姿でしょう。シッダールタ誕生の時に、カピラ城には大勢の人がお祝いに来られます。

その中に預言者でもあるアシタという聖者が居て、生まれたばかりのシッダールタの寝姿を見て涙を流し、そして手を合わせて静かに礼拝をされます。

それを見た父であるカピラ国の王シュッドーダナは「どうして涙を流されるのですか？何か不吉な事でも」と尋ねます。

アシタは答えます。「いや、自分の事でつい涙が出たんじゃ。この子が育つて偉大な人になる頃には、わしはもう死んでいるだろう。それが見られないとは残念だな。この子は世界の王者になるであろう。何万年かに一度の偉大な人間じゃろう」

そしてシッダールタの寝姿を見て「この子の指を、ごらん。一方は上を指差し一方は下を指差しておる。天の上にも天の下にも自分より尊いものは

無いと教えているのじゃ」

私は「なるほど」と思いました。寝相といえは寝相ですが、確かに此れは人相とか手相を超えた身体の相、身体のお姿。天地いつばいの寝姿です。

そして、どの赤ん坊も、この世に生れ出た瞬間の「オギャア」という第一声が「天上天下唯我独尊」と叫んでいるのです。

一人の人間が生れる奇跡は、天と地に満ち広がり、この世の中のどんな存在も比べる事の出来ない尊い存在「ひかりの子」最高の姿であると云う声です。

私は、以前縁あつてキリスト教の教会に行きました。聖書「ルカによる福音書」の中に「赤子のような心、幼子のような心でないと天国には行けない」

「子供達をわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者達のものである。はつきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入る事は出来ない」とありました。

「天上天下唯我独尊」がそのまま重なります。これはお釈迦様がお生まれになった時の言葉でなければならぬのです。

赤子の心、幼子の心とは何か。

人間は生まれて十六ヶ月たった時に「一」がわかり、三十二ヶ月たった時に「二」がわかるのだそうです。「二」がわかると云う事は、自分がわかる。

「二」がわかると云う事は、自分と他人がわかる。やがて好きと嫌い、損と得、勝つと負ける、良いと悪いと云う比べあいが始まり、そして憎しみや、妬み、争いが生れてきます。それを慈しみ、敬い、そして和合の心に成長させるのです。

この世の中の全ては「唯我」であり「独尊」です。

唯一人の「我」の自身は「無限の生命、無限の時間、無限の空間」といふ豊かで「尊い我」です。

この生命が天地いっばいに生かされている赤子の姿と心です。

その「天上天下唯我独尊」の心を持って衆生を導く「超宗越格の正眼」が雪竇禪師には具わっているのです。

(続く)

テレホン法話 (〇八九七 四一・〇〇三三)

禪のたより



◆こころの満足

ときどき、人間の生きがいとは何だろうか?と考えることがあります。誰もが抱える問題なのでしょうけれど、なかなか答えはできません。百人百様、それぞれの生き方や経験によっても違いますが、自己満足、自分の心が満たされることを、生きがいというのではないのでしょうか。

お釈迦さまは法句経で『ひともし 心つつましく 善き(よき) 行ずる賢者(もの)を友に 得ば すべての危難(あやうき)に克ち(かち) よろこび深く共に往く(ゆく)べし』と示されています。

お釈迦さまは、心を許せる友に出会えたなら、困難を共に乗り越えることのできる友に出会えたなら、その出会いを大切にすることが心の満足であると説かれています。

ところで、車を運転していきますとドキッとすることがあります。急に十字路から出て

きた時、ワインカーも出さず割り込まれた時、一時停止を無視された時、降りて注意しようとは思いませんが、文句の一つも出てきます。一人でブツブツ言っているとなんだか空しくなってきました。

連れ合いが同乗している時の車の中は文句の山です。ハンドルを握った彼女が私に「あの車、私たちに気づいてないわよ。どこを見て走っているのよ。ああいう運転をする人がいるから事故が起こるのよ」二人で怒るわけにもいかないのです、私は彼女に「まあそんなに怒らなくても良いんじゃない」と冷静に言う

と矛先は私に向きます。

「そう言いますけどね、あなたが運転しているときも文句言っているわよ、自分では気づいていないみたいだけど、結構ひどいよ」「そんなことはいよ」「いいえ、そんなことはありません」「そうかなあ……」そんな会話をしていると、いつの間にかお互いに前の車のことを忘れて、怒りも消えています。

一人ではできない、なんでもない会話ができたことの素晴らしさに気づかれます。

親しい関係であるほど、つい相手に配慮しない行動や言動をしてしまうこともあります。何かの縁で出会い、一緒に暮らすようになり、家族を持ち、今こうして同じ時間を過ごしているわけです。あなたにめぐり合えて、本当に良かったと心から言える出会いも、心の満足につながるものですね。

生きていれば、悲しいことも、苦しいことも、腹の立つことも起こります。そんな時は、一度立ち止まって周りを見渡してください。これまでの出会いの中に、あるいは今ある出会いの中に、心の満足以つながるものが見つかるかもしれません。今日の出会い、明日の出会いを大切に過ごしてまいりましょう。

愛媛県晴光院 曾根隆弘師
令和四年三月十一日(二十日)

◆ご縁を大切に

マスクの生活が続いています。それはもちろん、新型コロナウイルスへの感染を防ぐためですね。病氣に対する不

安は、二千五百年前、お釈迦さまが生老病死という教えで説かれています。

私たちは時代も、国も、性別も、自ら選んで生まれてきたわけではありません。目の前に広がる世界は常に変化し、医療が発達しても病気がなくなることはありません。不老不死の薬はなく、生きていれば、いつかは必ず死を迎えます。人生における重要な事柄は、何一つ自分の思い通りにならないのです。

お釈迦さまはこの思い通りにならない 生きる・老いる・病になる・死ぬ ということを四苦と名付けました。四苦は、人間誰もが思い通りにすることのできない苦しみです。私たちはその思い通りにならない世界で生活しているのです。

しかし、そんな苦しみの世界であっても、お釈迦さまは逃げ出さないとは言っています。一つの教えとして、その苦しみと向かい合い、今ここで生きている素晴らしさ、限りある命の有難さを感じ、その時その時を大切にしないさいと指示になりました。

二十数年前になります。本山での修行中、指導してくれてい

たご老僧に、「修行をしていると先輩から、その時その時を大切にしなければ」と言われます。どうすれば大切に出来るのですか」と質問しました。

ご老僧は「もし未来というものがあれば、未来と過去とを線で繋いでみる。両端から時間を削っていくと、必ず薄く残るものがある。それが今という時間だ。だが、そこまで薄くなると時間の中で話でなくなる。自分自身が今ということだ。今を大切にすること、自分自身を大切にすることだ、もう少し言うと、自分を認識しているのは自分ではない。周りの家族や友人、自然、社会、ご縁の中で認識してもらっている。そういう繋がりを大切にすることが自分自身を大切にすることだ」と教えて下さいました。

4月になれば新しい年度が始まり、新しい環境で新たな人の出会いや、知人との再会もあることでしょう。人との出会いは緊張感もありますが、自分の世界が広がる楽しみのひとつでもあります。

私たちは誰もが繋がりの中で生活し、誰かに私として認識してもらっています。繋がりの中で生かされている私が

いるのです。

その時その時を大切にすること、自分自身を大切にすることです。自分自身を大切にすることは、ご縁に生かされていることを自覚し繋がりを大切にすることです。限りある命とご縁を大切に過ごしてまいりましょう。

愛媛県晴光院 曾根隆弘師
令和四年三月二十一日～三十一日

◆こころを養う

我々人類は環境によって進化してきたと言われています。そして今新しいコロナという災いによって更なる進化を強いられています。今までの生き方や考え方を見直すことは簡単な問題ではありません。ウィズコロナとも言われる今の時代をどのようにに生き抜けばよいでしょうか。まさに人間のこころ・精神が問われる時代です。

仏様の原音とも言われる『法句経』には、最初にこころの問題が示されています。

二、ものごとは心にもとづき心を主とし心によって作り出される。もしも汚れた心で話したり行なったりするならば、苦しみはその人につき従う。

車を引く牛の足跡に車輪がついて行くように。

二、ものごとは心にもとづき心を主とし心によって作り出される。もしも清らかな心で話したり行なったりするならば、福楽はその人につき従う。影がそのからだから離れないように」と。

NHKで「こころの時代」という番組があります。仏教や哲学など人文の英知を講義する番組で、私も興味をもって見たことがあります。「こころの時代」まさに今の時代を反映した言葉ではないでしょうか。私も本来この心の問題をきっかけに哲学や仏教を学び、今お坊さんになっていきます。

心を学ぶこと（仏教）は、教えを聞く、自分で考える、そして実践修行するという聞・思・修（もんししゆ）が仏教徒の一般的な修行法ですが、直接自分の心を観察すること、自分に向き合うことは誰もが出来る実践方法だと思います。

儒教経典の一つである『大学』に「慎独」という言葉があります。辞典を開くと「自分ひとりで、他人のいない所で自分を慎むこと。また、常に自己の心中に注意して雑念が起らないようにすること」と説明されています。つまり、「ひとりをつつしむ（慎独）」は自分に向き合うことであり、坐禅のこととしても理解できます。

我々は常に人と向き合う生活をしています。一日を振り返ってみてください。朝起きてから夜寝るまで家族や友達そして職場の仲間など誰かと向き合っています。一人暮らしでもネットやスマートフォンなど常に誰かと繋がっています。こういう生活は自分自身をどんどん失って行きます。そして、常になにかに頼る人間になりつつあります。

人間は心と身体で成り立っています。時代の変化によってその重さも変わってきました。日本も明治維新以来、からだを中心とする生活、すなわち欲望や競争、そしてそれらを支える金の時代を目指して来たと思います。確かに、からだ中心の考え方は生活の豊かさや便利さを生み出しましたが、人間の本性とも言えるこころは衰退して来たのではないのでしょうか。地球温暖化、格差社会、人間性喪失など、連日起きる悲惨な事件事故は、今の社会の在り方を代弁しています。

この時代を救えるのは、神様や宗教でもなく、また金でもない、他ならぬ自分自身のこころです。我々はからだを養うために一日三回の食事をしています。こころを養うために何が出来るのでしょうか。こころを養うことは素直な自分に向き合うことです。その方法として今私が実践している三つの心得を紹介します。

まず、身の回りを整理整頓することです。生活を調えることで心の中の雑念や煩悩を減らすことができます。次は、静かなところで独り自分に向き合うことです。心を調えることで自分の本性に出会うことができます。そして、先人たちの叡智を学ぶことです。考え方を調えることで正しく判断することができます。皆さんのこころが養われる奇縁になれば幸いです。

瑞應寺専門僧堂蔵司 金 範松

令和四年四月一日～十日





降誕会

■ 釈尊降誕会
四月八日(金)、暁天坐禅、略朝課に引き続き釈尊降誕会を厳修。門原後堂導師のもと、出班焼香、香湯を以て誕生仏灌浴。釈尊降誕の聖日を祝った。
当日法堂にて、ひかり幼稚園入園式、進級式が行われ、花御堂の誕生仏に甘茶をかけ、親子ともに花祭りをお祝いした。



■ 金毘羅春大祭

四月十日(日)旧三月十日は毎年恒例、当山鎮守金毘羅大権現様の春の大祭日。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、邦楽奉納、バザー等は中止。感染対策を講じ福引、福餅進呈のみ行った。山主導師のもと、社殿にて、転読大般若祈禱を厳修。また、当山梅花講員の詠讃歌奉詠が行われた。
不安が募る毎日であるが、山内一同、当山檀信徒他、苦難に立ち向かわれているすべてのの方々の御心が少しでも和らぐことを祈った。



花御堂



金毘羅春大祭



白眉殿進捗状況
写真の通り工事が進んでおります。



四月の日鑑		五月の予定	
一日	祝禱	一日	祝禱
五日	参玄会(七日迄)	二日	白眉殿落慶法要
八日	釈尊降誕会	十日	参玄会(十二日迄)
九日	前夜祭	十五日	祝禱・略布薩
十日	春季金毘羅大祭	十八日	観音講・勉強会
十五日	祝禱・略布薩	廿九日	大玄一光大和尚
十八日	観音講・勉強会	廿八日	大玄一光大和尚
卅日	略布薩	廿九日	大玄一光大和尚
		卅一日	略布薩

銀杏感謝録

熊本県	明徳寺 殿
兵庫県	正入寺 殿
長崎県	田口寿子 殿
鳥取県	安国寺 殿
愛媛県	瑞光寺 殿
埼玉県	古徑荘 殿
愛媛県	山口泰 殿
福岡県	太養院 殿
広島県	潮音寺 殿
鳥取県	吉祥院 殿
広島県	東光寺 殿

(令和四年二月七日受付迄)



鐘 声

私が、上山をしてから、この四月で丸一年となります。この一年間はとても濃厚でもとても貴重な、そして、生涯忘れることのない時間となったと思います。

私の生涯で考えるとたったの一年ですが、それでも、たくさんの人への感謝、恩を感じ、また僧侶として大きな一歩となる一年でした。

これからの修行は、頂いたたくさんの方の恩を忘れることなく「報恩」に報いることをしたいと思っています。していただいた恩をその人に返すだけでなく、今度は自分が、他の誰かに恩を送って行きたいと思っています。 堂行寮 英俊